

平

成7年に菌床シイタケ培養袋製造業として創業した延岡市の株式会社エフテックは、独自に開発した菌床シイタケ培養袋「STバッグ」を主要製造販売商品として成長してきました。

国内の菌床シイタケの生産量は成熟期に入り、ここ5年は横ばいの状況です。中国などの海外産シイタケの輸入も年々増えており、国内市場に危機感を感じていた白羽根社長は、新しい市場へ挑戦する決意をしました。

ところが着目した菌床マイタケ市場では、培養袋の原材料にポリプロピレンを使用しているため、現在同社が菌床シイタケ培養袋に使用しているハイデンポリエチレンの製造設備を見直す必要がありました。そこでもものづくり補助金を活用してポリプロピレンの菌床袋の製造に対応するため設備改良を行いました。

これまで、一次加工で通気用の穴を開

「こ

れまでは、一次加工で通気用の穴を開

株式会社 エフテック

マイタケ菌床栽培袋の製造設備改良で新市場にチャレンジ

既存の生産ラインを集約することで生産性が向上。さらに、空いたスペースを有効活用して、付加価値の高い新商品を開発しました。

け、フィルターを溶着してロール状に巻き取り、その後、二次加工でシートを寸法毎に底面を溶着し切断という製造を行っており、500枚に一度は一次加工機を停止させなければなりませんでした。

どうせ設備を改良するのであれば、この二つの加工ラインを一つに集約することができないか。そうすれば、生産性が大幅に向上する。さらに、空きスペースを活用して新商品開発も行える。そんな大きな期待を持って、ラインの集約に取り組みました」

ものづくり補助金活用 ここがポイント



新しい設備が整って
生産効率が上がり品質も向上

菌床袋を製造するための専用加工機は販売されていないことから、類似商品の製造目的で作られた加工機を改良するなどして自社開発して製造しています。

新素材ポリプロピレンを使用した培養袋は、仕上がりが良く品質の高い製品になりました。



Q1 他社との差別化は？

A 開発能力にあります。製造ラインには生産性を高めるための独自の工夫が取り入れてあり、製造機も自社で設計・組立・改良を行っています。メンテナンスも自社で対応しており、いつでも開発や改良ができることが強みです。今後も若い技術者を養成しながら社業を発展させていきます。

Q2 STバッグには何種類くらいあるのですか？

A 現在、10種類を販売していますが、顧客の要望に応じて袋の厚みや大きさやフィルターの位置などカスタマイズして製造しているので約50～60種類の袋を製造しています。

〈代表取締役〉
白羽根 健一郎
しらはね けんいちろう

【座右の銘】
考えていても始まらない。
とにかくやってみる。

Q3 今後の展望は？

A シイタケ・マイタケの国内市場における販売強化だけでなく、欧米や東アジアを中心とした海外市場にも挑戦していきます。



「実

際、補助金を活用して製造設備改良を行い、製造ラインの見直しを行ったことで生産性が大きく向上しました。さらに、今まで二つの製造ラインが一つに集約され、工場内にできた空きスペースを活用して付加価値の高い既存の自社商品（手裂きシート付き袋）を製造できるようにになりました。新しい市場に参入することで社員のモチベーションも高まっています。これからの若い人材を育成しながらさらなる挑戦を続けていきます」と、白羽根社長は力強く話します。



Case 02 菌床栽培袋STバッグ製造販売
株式会社 エフテック

〒882-0085 宮崎県延岡市鹿狩瀬町1568番地9 TEL 0982-29-1243